

剪定作業時に発生する木粉が

黒色斑点症状及びえそ斑点病の発生へ及ぼす影響

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

2018年は、‘新甘泉’の葉において原因不明の黒色斑点症状が多発した。本症状はウイルスに起因すると推定されているナシえそ斑点病と類似した点があり、生産現場からは剪定作業による伝染（汁液を含む木粉との接触による被害拡大）を懸念する声があった。そこで、黒色斑点症状発症樹及びえそ斑点病罹病樹由来の木粉と健全樹との接触が、それぞれの発症へ及ぼす影響を調査した。

(2) 情報・成果の要約

- 1) 黒色斑点症状及びえそ斑点病の発症枝由来の木粉を伝染源として接種試験を行った場合、両症状は再現されなかった。
- 2) 以上のことから、黒色斑点症状及びえそ斑点病のいずれも剪定等の管理作業時に伝染する可能性は低いと考えられた。

2 試験成果の概要

- (1) 2019年春に‘マメナシ’台木に対して‘新甘泉’（原木由来穂木）または‘HN39’（えそ斑点病の検定品種）を接ぎ木した。
- (2) 接ぎ木と同時期に、木粉を0.4gずつ穂木部分へ接種し、そこから展葉した葉における発症状況を3年間調査した。即ち、‘新甘泉’の穂木部分へは黒色斑点症状発症樹の枝から作出した木粉を、‘HN39’にはえそ斑点病罹病樹の枝から作出した木粉を接種した。
- (3) 試験期間を通して両区とも明確な発症は認められなかった（表1）。

表1 木粉の被接種樹における黒色斑点症状及びえそ斑点病の発症推移

試験区	調査時期		発症葉率 (%)					
			2019年		2020年		2021年	
	6月	7月	6月	7月	6月	7月		
黒色斑点症状発症枝由来の木粉接種（穂木：‘新甘泉’）	1.2	0.8	0.8	0.2	0	0		
えそ斑点病罹病樹由来の木粉接種（穂木：‘HN39’）	0.9	0.8	0	0	0	3.4		
【参考】えそ斑点病罹病樹の穂木に対する‘HN39’穂木の二重接ぎ木 ^{a)}	80.0	85.7	22.4	21.1	13.3	17.5		

^{a)} 表に示した値は、‘HN39’の穂木から展葉した葉における発病葉率を示す。

3 利用上の留意点

- (1) 黒色斑点症状の原因は不明であり、えそ斑点病の病原は特定されていない。
- (2) 同試験期間にえそ斑点病罹病樹の穂木に対して‘HN39’を接ぎ木した場合は、検定品種において明確な発病を確認した。

4 試験担当者

（ 環境研究室 研 究 員 山田 高之
環境研究室 室 長 米村 善栄
環境研究室 室 長 中田 健※
※現 農業振興監経営支援課農業普及推進室